

令和2年6月1日

竹早教員保育士養成所
所長 齊藤 光一 殿

竹早教員保育士養成所
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会実施報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

I. 学校関係者評価委員会出席者

芦野 裕一 (学校法人彰栄学園 常務理事)
佐藤 良文 (学校法人明照学園明照幼稚園 園長)
佐々木 妙子 (一般社団法人慈愛会慈愛会保育園 園長)
湯澤 都与子 (竹早教員保育士養成所同窓会 理事)

II. 学校関係者評価委員会の開催状況

令和2年3月23日 (会場：竹早教員保育士養成所 第1校舎第3教室)

III. 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

1. 学校の理念、教育目標

学校の理念、教育目標は普遍的なものであるが、近年、社会の保育に対する期待が増大して学生の質が問題となっている。時代とともに問題点に対応することを確認。

2. 重点目標と達成計画

- ・幼稚園教員・保育士は人間形成という高度な精神活動に関わる職務に従事する専門職である。その資質を育成することを確認。
- ・経済的理由で授業料納入ができなくなり、学校をやめていく学生がいる。奨学金等を利用しているが借りた奨学金が生活費になってしまうことが多いことが直近の課題であることを確認。

3. 評価項目別取組状況の質疑意見は以下のとおり

(1) 基準1 教育理念・目的・育成人材像

- ・社会の保育に対する期待が増大していることから、学生指導と就職指導の充実に全教職員一丸となって取り組んでいることを確認。
- ・本校の方針をより一層深くご理解いただくために「3つのポリシー」を追加説明で確認。

(2) 基準2 学校運営

- ・教務、事務と人材不足が続いており、解消することが課題だと確認。
- ・年に1回、所長による教職員の個人面談を実施し、教育目標・成果等を確認。
- ・財政面と人事面の充実が基盤となり、本校の望ましい学校運営のためには、何よりも学生数の確保が重要であることを確認。

(3) 基準3 教育活動

- ・実践的な保育者を養成することで理念等に沿った教育課程の編成・実施を行っていることを確認。
- ・教員の業績を求められており、カリキュラム等を確認。
- ・FDにより先生方同士で授業参観、授業アンケートの実施を確認。
- ・学生の成績は判定会議決めていることを確認。

(4) 基準4 学修成果

- ・令和元年度も就職を希望する学生は就職率100%の実績を確認。
- ・就職面で求人数、求人ピーク時期、内定者の確認。
- ・卒業後の離職は、追えていないことが課題だと確認。

(5) 基準5 学生支援

- ・学費面では、日本学生支援機構奨学金、各自治体の保育士修学資金を中心に学生を支援。令和2年度からは高等教育無償化新制度の利用を確認。
- ・教育面では、保証人を対象にした保証人会を実施して学生をサポートしていることを確認。
- ・竹早教員保育士養成所同窓会との連携を深めることが大切だと確認。

(6) 基準6 教育環境

- ・教育上の必要性に十分対応した施設設備等整備していることを確認。
- ・中長期計画を立てているが、予算の関係上、優先順位の高い順に取替更新、修繕を実施していることを確認。

(7) 基準7 学生の募集と受け入れ

- ・東京都専修学校各種学校協会の基準に基づき学生募集、入試日程等を組んでいることを確認。

(8) 基準8 財務

- ・中期的には財務基盤は安定しているが、長期的には、年々受験生が減少していることが最大の懸念事項であることを確認。
- ・学生募集で「入口から出口まで」をセットとしてお得感をアピールすることを確認。
- ・学生募集で卒業生の活躍している姿をアピールすることを確認。

(9) 基準9 法令等の遵守

- ・短期大学設置基準に規定された内容を遵守することで認可されている専門学校であると確認。
- ・SNS等の問題が起き、厳しく対応したことがあると確認。

(10) 基準 10 社会貢献・地域貢献

- ・明照幼稚園との共同研究を確認。
- ・特別支援学校や盲学校へのボランティアを確認。
- ・教員免許更新講習を確認。
- ・文京区や目白台総合センターの催物への参加を確認。

4. 令和元年度重点目標達成についての自己評価

- ・幼稚園教員・保育士は、人間形成という高度な精神活動に関わる職務に従事する専門職であり、その資質を育成するために取り組んだことを確認。
- ・いかに質を高めることができるか。学校と園との連携が大切だと確認。
- ・保育士が不足しているのに学生数が減っている現実があると確認。
- ・評価報告書を 10 年間保存すると達成度わかると確認。
- ・令和 2 年度は下記の重点目標をさらに徹底することを確認。
 - (1) 学業に取り組む基本的な姿勢を身に付ける。
 - (2) 保育者として必要な子ども理解及び保育を構成する力を高める。
 - (3) F D (教員の教育能力を高めるための実践的方法) による教育研修の充実に努める。
- ・上記の確認事項に基いて改善への取り組みを引き続き行っていく必要がある。